



奈良県感染症情報

令和6年 第25週(6月17日～6月23日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 腸管出血性大腸菌感染症について

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	手足口病	9.38	(8.85)	↗	↗	↗
2	感染性胃腸炎	4.38	(5.41)	→	↘	↗
3	新型コロナウイルス感染症	4.02	(3.49)	→	↗	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	2.97	(4.03)	↘	↘	↘
5	RSウイルス感染症	0.82	(0.79)	↘	↘	↗

発生状況: **大流行** やや流行 **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の把握を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

手足口病の定点当たり報告数は9.38で前週の8.85からさらに増加し、警報発令中です。奈良県内すべて地域で流行が見られ、特に中和保健所管内西部地域において17.83と特に高くなっています。流水とせっけんかつりと手を洗う、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策をお願いします。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は4.02で前週の3.49から増加しています。昨年7月から9月にかけて流行が見られましたので、今後の動向に注意が必要です。換気、消毒、人との距離、必要な場面のマスク着用といった感染予防対策を心がけましょう。

◆ 腸管出血性大腸菌感染症について ◆

腸管出血性大腸菌感染症は、O157をはじめとするペロ毒素を産生する腸管出血性大腸菌の感染によって引き起こされる感染症です。おおよそ3～8日の潜伏期間の後に発症し、症状は無症候性から軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、さらに著しい血便とともに重篤な合併症を起し死に至るものまで様々です。特に小子どもや高齢者は重症化しやすいため、注意が必要です。
 この菌は主に牛の腸に生息しており、牛を解体処理する過程で牛肉に付着したり、牛の糞尿により汚染された食品や井戸水を経口摂取することでヒトに感染します。また、患者や感染した人の便で汚染されたタオルや、お風呂のお湯、トイレのドリアップ等を介して感染する場合があります。感染力が強く、少数の菌(100個程度)で感染するため、集団生活の中で感染が拡大する場合があります。保育園や高齢者施設では集団感染事例が報告されています。

【腸管出血性大腸菌感染症を予防するために】

- 食品は中心部までよく加熱して食べましょう。(中心温度が75℃以上で1分以上)
- 野菜等を生で食べる時は、よく水で洗いましょ。
- 生肉と他の食品を分けて保存し、生肉を扱う箸と食べる箸は分けましょう。
- まな板・包丁などの調理器具は必ずよく洗い、消毒しましょう。
- 帰宅後、調理前、食事前、トイレ後、おむつ換えの後、動物と触れあった後はなどは、石けんでよく手を洗いましょう。
- 下痢などの症状があるときや感染の可能性があるときは、プールや公衆浴場などの利用は控えます。



奈良県感染症情報

令和6年 第26週(6月24日～6月30日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	手足口病	10.18	(9.38)	↗	↗	↘
2	感染性胃腸炎	4.50	(4.38)	→	↘	→
3	新型コロナウイルス感染症	4.13	(4.02)	→	↗	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	3.35	(2.97)	→	→	↘
5	RSウイルス感染症	0.94	(0.82)	↘	↘	↘

発生状況: **大流行** やや流行 **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の把握を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

手足口病の定点当たり報告数は10.18で前週の9.38からさらに増加し、警報発令中です。奈良県北部及び中部を中心に流行が見られています。感染経路である接触感染及び業口感染を防止するため、おむつを交換するときには排泄物を適切に処理し、しっかりと手を洗いましょ。また、口の中の水疱性発疹により、乳幼児は水を飲むことを嫌がることもありますが、水分補給にも注意しましょ。

A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は3.35で、前週の2.97から増加しています。特に中和保健所管内西部地域においては10.33と高くなっています。いずれの年齢でも起こる疾患ですが、学童期の小児に最も多く見られ、家庭や学校での集団での感染も多くなります。患者との濃厚接触を避け、うがいや手洗いなどの感染予防対策を心がけましょ。

◆ 小児科外来情報 ◆

北郡地区(田中小児科医院)

溶連菌感染症と手足口病は減少してきました。
 アデノウイルス咽頭炎、ヘルパンギーナが見られるようになった。COVID-19 陽性例はなかつた。
 感染性胃腸炎は持続している。
 マイコプラズマ陽性例もあるが、原因が究明できていない。気管支炎が学童を中心に見られる。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

COVID-19 陽性例は成人でまだ見られたが小児では見られなかつた。インフルエンザはなかつた。
 A群溶血性連鎖球菌が流行中、成人例もあり無熱、咽頭痛が多い。
 水痘も増加。生後6か月の帯状疱疹がさらに増加している。
 手足口病も流行中。今期の流行は口内炎なく発疹が多く特徴的な印象。中枢神経症候等の重症例はなかつた。
 感染性腸炎も多い。

南郡地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病の流行は続いているが、やや減少してきた。ヘルパンギーナの流行も続いているが横ばい。
 嘔吐中心のウイルス性胃腸炎がさらに増加している。
 溶連菌感染症も多い。抗生剤投与での熱退行例では、アデノウイルスやマイコプラズマ合併例がみられた。
 ハライフルエンザ、ライノウイルスが散見。咳嗽遷延例より百日咳陽性もみられた。
 COVID-19は少数散発している。



奈良県感染症情報

令和6年第27週(7月1日～7月7日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病
監視強化中!

今週の概要
・病原体(ウイルス)検出情報(6月)
・夏休みに海外旅行を予定している皆様へ

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	手足口病	9.50	(10.18)	→	↗	→
2	新型コロナウイルス感染症	7.95	(4.13)	↗	↗	↗
3	感染性胃腸炎	3.44	(4.50)	↘	↘	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	2.74	(3.35)	↘	↘	↘
5	RSウイルス感染症	0.97	(0.94)	→	→	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↘**急減、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆県内概況◆

手足口病の定点当たり報告数は、9.50で警報発令中です。奈良県内すべての地域で流行が見られ、中和保健所管内西部地域においては、16.33と特に高くなっています。流水とせっけんでの1つかりと手を洗い、タオルの共用は避けましょう。
新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、7.95で、前週の4.13から増加しています。奈良県北部地域においては、過去5週間平均数と比べて急増しており、特に注意が必要です。高齢者や基礎疾患のある方が感染した場合は重症化する場合もあります。マスクの着用を含めた咳エチケットや手洗い(手指消毒)、換気等の感染予防対策をお願いします。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和6年6月)◆

検出病原体	*ウイルス分離症日での集計結果			
	北部	中部	南部	その他
ヒトヘルペス 6B		1		発疹症(1)
A群ロタ		1		ロタウイルス胃腸炎(1)
アデノ	1	1		気管支肺炎(1)
コクサッキーB群		5型	1	急性気管支炎(1)

◆夏休みに海外旅行を予定されている皆様へ◆

外国では日本にない病気が発生していたり、日本にいない病気が高いリスクがある場合があります。予防接種によって予防できる病気が限られていますが、接種により罹患や重症化のリスクを下げることで、必要な予防接種は、渡航先や渡航期間、健康状態や予防接種歴などにより異なりますので、海外に旅行される予定がある場合は、事前に渡航先の感染情報を収集するとともに、トラベルクリニックや渡航外来の医療機関等で予防接種の種類や日程についてご相談ください。
予防接種の種類によっては、数回(間隔をあけて2~3回)接種しなければならぬものもありますので、接種の計画は余裕をもって早めに立てておきましょう。

海外渡航のためのワクチン(予防接種) (厚生労働省検疫所HP)
https://www.forth.go.jp/more/inf6/copics/usetul_vaccination.html



奈良県感染症情報

令和6年第28週(7月8日～7月14日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病
監視強化中!

今週の概要
・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	新型コロナウイルス感染症	13.24	(7.95)	↗	↗	↗
2	手足口病	10.41	(9.50)	→	↗	↗
3	感染性胃腸炎	4.21	(3.44)	→	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	2.32	(2.74)	↘	↘	↘
5	RSウイルス感染症	1.03	(0.97)	→	→	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↘**急減、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数が13.24で前週の7.95から増加しており、奈良県全域で過去5週間平均数と比べて急増しています。定点当たり報告数の動向が昨年と類似しており、今後さらなる感染拡大が懸念されます。感染予防のため、換気、消毒、人との距離、必要な場面でのマスク着用といった対策をお願いします。

手足口病の定点当たり報告数は10.41で前週の9.50から増加し、警報発令中です。奈良県内すべての地域において警報基準値である(5)を越えており、引き続き注意が必要です。感染経路は、飛沫感染、接触感染、薰く感染です。この機会に流水と石けんで正しい手洗い方法を再確認し、こまめに手を洗いましょう。正しい手洗いの仕方(保健広報オンライン)
https://www.gov-online.go.jp/prg/prg20343.html

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19が学童で2週連続して発生している。
手足口病と溶連菌感染症が流行中、ヘルパンギーナは増加していない。
ワクチン歴のある水痘があった。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

溶連菌感染症の先行感染ははきりしていない急性糸球体腎炎と思われる症例があった。
成人ではCOVID-19陽性例を散見するが小児では疑って検査する例はなかった。
手足口病が流行中、口内疹少なくとも下肢全体に多数認められる例が多い。
1歳児で6月末に続いて2度目の罹患の例がありウイルス分離提出中、検体採取は便で、ヘルパンギーナ、A群溶血性連鎖球菌の流行も横ばいで持続。
感染性腸炎も流行。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病の流行が続いている。2回罹患する幼児もあり、2種類以上の型が流行している。
ヘルパンギーナも増加している。発熱、咽頭痛は強い。
アデノウイルスは散発。RSウイルスも散見された。
COVID-19は発生しているも大きな流行の様子はない。
マイコプラズマ陽性例も増加してきた。





奈良県感染症情報

令和6年 第29週(7月15日～7月21日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病 最新情報中!
今週の概要
・レジオネラ症について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減		
1	新型コロナウイルス感染症	16.67	↑↑	↑↑	↑↑
2	手足口病	11.21	→	→	→
3	感染性胃腸炎	2.32	→	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	2.09	→	→	→
5	RSウイルス感染症	0.79	→	→	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数 (疾患毎に、基準値を定めています。) ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→やや増加、→傾ばい、→やや減少、↓減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数が16.67で前週の13.24から増加しており、奈良県全域で急増しています。全国の報告数も増加傾向が続いており、今後、夏の間に一定の感染拡大が生じた場合、医療提供体制のひっ迫を招くおそれがあります。感染予防には、「換気」「手洗い」「手指消毒」などの基本的な感染対策が有効です。特に、高齢者や基礎疾患のある方が感染すれば重症化リスクも高まります。通院や高齢者施設を訪問するときなどは、感染予防として「マスク着用」が効果的です。県庁や高齢の方と会う場合や大人教で集まる場合は、感染予防を心がけ、体調を整えるようにしましょう。手足口病の定点当たり報告数は11.21で、前週の10.41から増加し、警報発令中です。感染経路は、飛沫感染、接触感染及び糞口感染です。流水と石けんですっきりと手を洗い、タオルの共用は避けましょう。

◆レジオネラ症について◆

レジオネラ症は、レジオネラ・ニューモフィラを代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症です。レジオネラ属菌は、自然界(河川、湖沼、温泉や土壌など)に広く生息しています。この菌に汚染されたエアロゾル(細かい霧やしぶき)や、土壌の粉塵の吸入などにより感染します。人から人への感染はありません。これまで空調機の冷却塔、循環式浴槽、給湯設備、加湿器、園芸・農業などに関連した発生が報告されています。

<症状>

主な病型は、重症のポンチアック熱に分類されます。レジオネラ肺炎の潜伏期間は2～10日で、高熱、咳、呼吸困難とともに、頭痛、筋肉痛、下痢、意識障害などの呼吸器以外の症状もみられます。重症の場合、死亡例も報告されています。ポンチアック熱の潜伏期間は1～2日で、突然の発熱、悪寒、筋肉痛などの症状がみられますが、一過性で自然に治癒します。

<対策>

感染源となる設備について、日頃から衛生管理に十分注意することが必要です。レジオネラ属菌は、設備に付着するバイオフィルム(細菌で形成される「ぬめり」)の中で大量に増殖することが知られているため、清掃等により汚れや「ぬめり」を落とすことで、レジオネラ属菌が増殖しやすい環境をなくすることが大切です。
・循環式浴槽(洗い・吹き機能付き風呂・24時間風呂など)を備えている場合は、浴槽内に汚れや「ぬめり」が生じないように定期的に洗浄するなど適切に維持管理しましょう。
・超音波振動などの加湿器を使用するときには、毎日水を入れ替えて容器を洗浄しましょう。

◎参考ホームページ: レジオネラ症(厚生労働省) ⇒ https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html



奈良県感染症情報

令和6年 第30週(7月22日～7月28日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病 最新情報中!
今週の概要
・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減		
1	新型コロナウイルス感染症	20.73	↑	↑	↑
2	手足口病	9.38	→	→	→
3	感染性胃腸炎	2.88	→	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	2.03	→	→	→
5	RSウイルス感染症	0.85	→	→	↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数 (疾患毎に、基準値を定めています。) ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→やや増加、→傾ばい、→やや減少、↓減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数が20.73で、前週の16.67から増加しており、奈良県全域で増加傾向が続いています。全国の報告数も増加傾向であり、更なる感染拡大が懸念されます。感染予防には「換気」「手洗い」「手指消毒」などの基本的な感染対策が有効です。特に、高齢者や基礎疾患のある方が感染すれば重症化リスクも高まります。通院や高齢者施設を訪問する時などは、感染予防として「マスクの着用」が効果的です。もし、マスクを着用していない時にしゃみや咳が出る場合は「ラッシュ・ハンカチ」で口鼻を覆う「袖で口鼻を覆う」といった咳エチケットを心がけましょう。また、県庁や高齢の方と会う時、大人教で集まる時は、今一度感染予防を心がけ、体調を整えるようにしましょう。手足口病の定点当たり報告数は9.38で、警報発令中です。引き続き、流水と石けんですっきりと手を洗い、タオルの共用は避けるなどの感染対策をお願いします。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19は増加している。家族内感染以外の症例もある。手足口病は保育園児で、溶連菌感染症は学童で続いている。手足口病は今年になって2度目の患児も多い。感染性胃腸炎は減少傾向。咳を主訴とする患児が多い。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19患者は成人ではやや増加傾向であるが、小児ではそれほど多くはない。手足口病が増加、流行持続中。発疹は、前週まで多発の傾向であったが、今週はやや少ない例が増えてきた印象。口内炎の多い例は今季少ない。短期の水様下痢例もある。高熱例は少ない。A群溶連菌連鎖球菌、感染性腸炎も流行持続。ヘルパンギーナは減少。咳の例があるがRSはなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19感染症は増加している。小児では症状はあまり変わっていない。手足口病の流行も持続している。RSウイルス感染症も増加傾向にある。マイコプラズマ感染症も散見されている。



参考:厚生労働省作成の「正しい手洗いの仕方」
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/eisakuunit/stf/eisakuunit/eisaku/eisaku00001873097.html>)

奈良県感染症情報

令和6年第31週(7月29日～8月4日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病
重症化中!

今週の概要

- ・ 病原体(ウイルス)検出情報(7月)
- ・ 7月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	増減	北部 中部 南部
1	新型コロナウイルス感染症	18.95 (20.73)	↑	↑ 1 1 1
2	手足口病	9.12 (9.38)	→	→ 1 1 1
3	感染性胃腸炎	3.09 (2.88)	→	→ 1 1 1
4	A群溶連菌咽頭炎	1.50 (2.03)	↓	↓ 1 1 1
5	RSウイルス感染症	1.38 (0.85)	↑	↑ 1 1 1

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は18.95です。依然として高い水準で推移しており、注意が必要です。引き続き、「換気」「手洗い」「手指消毒」等の基本的な感染対策をお願いします。高齢の方と会う時や大人数で集まる時は、マスクの着用や咳エチケット等を心がけましょう。
 手足口病の定点当たり報告数は9.12で、警報発令中です。今年に2回罹患したという報告もあります。流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避け等々の感染対策をお願いします。
 RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.38です。奈良県全域で増加しており、注意が必要です。特に、中部地域での報告数は1.69で、前週の0.38から大きく増加しています。感染経路は接触感染と飛沫感染です。子ども達が日常的に触れるおもちゃや手すり等のアルコール消毒、流水と石けんでの手洗い、マスクの着用等の感染対策が有効です。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和6年7月)◆

* ウイルス分離判定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
アデノ	3	1			感染性胃腸炎(1)
アデノ	41	1			感染性胃腸炎(1)
インフルエンザ	AH1pdm				インフルエンザ(2)
インフルエンザ	AH3	1			インフルエンザ(1)
インフルエンザ	B				インフルエンザ(2)
ヒトパレコ	3	1			発疹症(1)
ヒトメタニューモ		2			ウイルス性肺炎、マイコプラズマ肺炎(1) 急性気管支炎(1)

奈良県感染症情報

令和6年第32週(8月5日～8月11日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病
重症化中!

今週の概要

- ・ 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	増減	北部 中部 南部
1	新型コロナウイルス感染症	12.66 (18.95)	↓	→ 1 1 1
2	手足口病	8.32 (9.12)	↓	→ 1 1 1
3	感染性胃腸炎	2.87 (3.09)	→	→ 1 1 1
4	A群溶連菌咽頭炎	1.10 (1.50)	↓	↓ 1 1 1
5	RSウイルス感染症	0.94 (1.38)	→	→ 1 1 1

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は12.66です。インフルエンザと同時感染者の報告もあり、注意が必要です。夏休みは帰省や旅行等で人との接触機会が普段より多くなります。外出後や食事前にはしっかりと手を洗い、こまめに換気しましょう。高齢の方と会う時や大人数で集まる時は、十分な感染予防を心がけて体調を整えることが重要です。体調不良時は無理をせず、咳やくしゃみ等がみられる場合には、咳エチケットや、正しいマスクの着用をお願いします。
 手足口病の定点当たり報告数は8.32で、警報発令中です。今年になって2回罹患したという報告もある為、流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避け等々の感染対策を引き続きお願いします。また、口の中の水疱性の発疹により、子どもが水を飲むことを嫌がる事もあります。特に夏場は脱水症を引き起こしやすい為、水分補給に十分注意しましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19が増加している。インフルエンザが見られた。両者の同時感染者もいた。手足口病は減少傾向にある。最近の症例は教科書通りの例が多い。
 咳の強い症例、特に学童以上の年齢ではマイコプラズマ感染症が多く見られる。溶連菌感染症と感染性胃腸炎は少数。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病の流行は続いている。ヘルパンギーナも散見されている。COVID-19は増加傾向にあるも大流行にはなっていない。
 RSウイルス感染症、マイコプラズマ感染症は増加している。ウイルス性下痢症は比較的軽症で経過。



【出典: 首相官邸 HP より】
<https://www.mhsc.go.jp/content/0940000/000594893.pdf>



奈良県感染症情報

令和6年第33週(8月12日～8月18日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病
監視強化中!

今週の概要

- ・カンピロバクター感染症について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	新型コロナウイルス感染症	6.45	(12.82) ↓	↓	↓	↓
2	手足口病	3.77	(8.47) ↓	↓	↓	↓
3	感染性胃腸炎	1.97	(2.71) ↓	↓	↓	↓
4	RSウイルス感染症	0.87	(0.85) ↓	↓	↓	↑
5	A群溶連菌咽頭炎	0.80	(1.12) ↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↔**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は6.45です。前週に比べ、定点当たり報告数が大きく減少しましたが、お盆等の休診で、一時的に減少している可能性もあります。引き続き、こまめな手洗い・換気や咳エチケット等の感染対策をお願いします。

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.87です。感染経路は接触感染と飛沫感染で、発症の中心は0歳児と1歳児です。接触感染対策として、子ども遊が日常的に触れるおもちゃや手すりなどはこまめに消毒し、流水と石けんしっかりと手を洗う事が重要です。飛沫感染対策として、鼻汁、咳などの症状がある場合、マスクを着用できる年齢の子どもや大人はマスクの着用をお願いします。

◆カンピロバクター感染症について◆

《概要》

カンピロバクター感染症はその名の通り、カンピロバクターという細菌により引き起こされる感染症であり、細菌性食中毒の主な原因の一つです。厚生労働省の食中毒統計によると、近年の細菌性食中毒の中で発生件数が最も多くなっています。この菌の特徴として、数百個程度と比較的少ない菌数で感染を引き起こすこと、酸耐性や加熱に弱いこと、酸濃度の低い環境でよく発育し大気中では増殖不能ことが知られています。感染後 2～7 日程度の潜伏期間を経て、腹痛、嘔吐、発熱などの胃腸炎症状を呈します。免疫力の弱い小児や高齢者が罹患すると重症化することもあります。また感染から1～2週間後に、合併症として顔面麻痺、手足のしびれなどの神経症状を呈すギラン・バレー症候群を発症することもあるため注意が必要です。

《感染の原因》

カンピロバクターの主な感染経路は一般に食品からとされており、加熱不十分な食肉、特に鶏肉の生食が多くなっています。これはカンピロバクターが鶏や牛などの腸管内に生息しており、食肉への加工の工程で肉が汚染されていることがあるためです。そのため新鮮な食肉であっても菌が付着していることがあり注意が必要です。食肉の生食以外にも、食肉からのドリップや洗浄・殺菌が不十分な調理器具を介して2次汚染された他の食材、汚染不十分な井戸水や湧水による感染も報告されています。

《予防対策》

- ・生又は加熱不十分な食肉は食べず、中心部までよく加熱して食べましょう。(中心部が75℃以上で1分以上)
- ・2次汚染を防ぐため、食肉は他の食品と調理器具や容器を分けて、処理や保存を行いましょう。
- ・食肉を調理した後は、手指や調理器具を十分に洗浄・殺菌しましょう。
- ・未殺菌の飲料水、野生動物などにより汚染された環境水を採取しないようにしましょう。



奈良県感染症情報

令和6年第34週(8月19日～8月25日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病
監視強化中!

今週の概要

- ・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	新型コロナウイルス感染症	7.65	(6.45) ↓	↓	↓	↓
2	手足口病	4.74	(3.77) ↓	↓	↓	↓
3	感染性胃腸炎	2.21	(1.97) ↓	↓	↓	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	0.88	(0.80) ↓	↓	↓	↓
5	RSウイルス感染症	0.38	(0.87) ↓	↓	↓	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↔**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は7.65です。夏休みも終わり、学校が再開となります。人との接触機会が増えるため、注意が必要です。引き続き、「手洗い」「手洗い」「手指消毒」等の基本的な感染対策をお願いします。

マイコプラズマ肺炎の基幹定点当たり報告数は1.33です。下記小児科外来情報でも増加傾向が確認されており、過去10年の7～8月の報告数と比較すると、大流行した2016年の報告数に迫っています。例年、秋冬に増加する傾向があるため、今後注意が必要です。小児や若い人に比較的多く、発熱や咳などの症状があらわれ、解熱後も咳が長期(3～4週間)にわたって続くのが特徴です。感染予防として、普段から流水と石けんによる手洗いをすることが大切で、感染した場合は、家族間でもタオルの共用は避けましょう。咳の症状がある場合には、マスクの着用や咳エチケットを心がけましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

手足口病とCOVID-19は減少した。溶連菌感染症も減少した。マイコプラズマ感染症が流行している。家族内感染も見られる。その他、喘息性気管支炎が増加、RSウイルスと確定された症例は無かった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19陽性例、インフルエンザは見られなかった。学童でマイコプラズマ肺炎が流行。紹介入院例もあった。手足口病、ヘルパンギーナは減少。流行性耳下腺炎が1例あった。下痢が主症状で嘔吐のない感染性腸炎も流行。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病、ヘルパンギーナの流行は継続している。RSウイルス感染症は増加、入院例も多い。マイコプラズマ肺炎も増加してきている。一部マクロライド系抗生剤に不応例もみられる。COVID-19 感染症はやや減少してきた。下痢中心の胃腸炎も多い。



手洗い
①流水で30秒以上洗う
②手の甲、指の間、爪の間、手首も洗う
③水が乾いたら、清潔なタオルで拭く
④清潔なタオルで拭く
⑤清潔なタオルで拭く
⑥清潔なタオルで拭く
⑦清潔なタオルで拭く
⑧清潔なタオルで拭く
⑨清潔なタオルで拭く
⑩清潔なタオルで拭く

手洗いで感染予防
①流水で30秒以上洗う
②手の甲、指の間、爪の間、手首も洗う
③水が乾いたら、清潔なタオルで拭く
④清潔なタオルで拭く
⑤清潔なタオルで拭く
⑥清潔なタオルで拭く
⑦清潔なタオルで拭く
⑧清潔なタオルで拭く
⑨清潔なタオルで拭く
⑩清潔なタオルで拭く

手洗いで感染予防
①流水で30秒以上洗う
②手の甲、指の間、爪の間、手首も洗う
③水が乾いたら、清潔なタオルで拭く
④清潔なタオルで拭く
⑤清潔なタオルで拭く
⑥清潔なタオルで拭く
⑦清潔なタオルで拭く
⑧清潔なタオルで拭く
⑨清潔なタオルで拭く
⑩清潔なタオルで拭く

手洗いで感染予防
①流水で30秒以上洗う
②手の甲、指の間、爪の間、手首も洗う
③水が乾いたら、清潔なタオルで拭く
④清潔なタオルで拭く
⑤清潔なタオルで拭く
⑥清潔なタオルで拭く
⑦清潔なタオルで拭く
⑧清潔なタオルで拭く
⑨清潔なタオルで拭く
⑩清潔なタオルで拭く



奈良県感染症情報

令和6年第35週(8月26日～9月1日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病
重症化傾向中!

今週の概要
・HPVワクチンキャッチアップ接種のご案内
・病原体(ウイルス)検出情報(8月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減		
1	新型コロナウイルス感染症	6.96	↘	↘	↘
2	手足口病	5.85	→	→	→
3	感染性胃腸炎	2.79	→	↗	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	1.32	→	→	↗
5	水痘	0.44	↗	↗	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数流行 (疾患毎に、基準値を定めています)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↗急増、↗増加、↗やや増加、↔横ばい、↘やや減少、↘減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は6.96です。夏休みも明け、新学期が始まりましたが、まだ体が学校での生活リズムに慣れていない方も多いため、体調管理に注意して下さい。「換気」「手洗い」「手指消毒」等の基本的な感染対策も引き続きお願いします。体調不良時は無理をせず、咳やくしゃみ等がみられる場合には、咳エチケットや正しいマスクの着用をお願いします。
手足口病の定点当たり報告数は5.85で、再び警報開始基準値の「5」を超えました。第29週をピークに減少に転じたかと思われましたが、前週、今週と増加しています。幼稚園や小学校等も再開となり、子ども同士の接触機会も多くなります。再度、流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避ける等の感染対策に注意しましょう。

◆HPVワクチンキャッチアップ接種のご案内◆ ※対象:平成9年～19年度生まれの女性

無料(公費)でHPVワクチンを接種できる期限が迫っています!ワクチン接種は最大3回必要です。
3回すべての接種を無料で完了するためには、9月中に1回目の接種を開始する必要があります。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和6年8月)◆

*ウイルス分離判定での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
A群ロタ	G3	1			ロタウイルス胃腸炎(1)
A群ロタ	G8	2	1		ロタウイルス胃腸炎(3)
エンテロ	71型	2			手足口病(2)
コクサッキーA群	6型	2	1		手足口病(2)、咽頭炎(1)
コクサッキーA群	9型	1			アデノウイルス感染症(1)
コクサッキーA群	16型	5	3		手足口病(8)



奈良県感染症情報

令和6年第36週(9月2日～9月8日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病
重症化傾向中!

今週の概要
・小児科外来情報
・8月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減		
1	手足口病	5.82	→	→	↗
2	新型コロナウイルス感染症	5.62	↘	↘	↘
3	感染性胃腸炎	3.18	↗	↗	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	1.03	→	→	↗
5	RSウイルス感染症	0.62	→	↘	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数流行 取捨 (疾患毎に、基準値を定めています)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↗急増、↗増加、↗やや増加、↔横ばい、↘やや減少、↘減少

◆県内概況◆

手足口病の定点当たり報告数は5.82です。前週に引き続き今週も警報開始基準値の「5」を超えており、注意が必要です。流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用を避ける等、感染対策の徹底をお願いします。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3.18で、前週の2.79から増加しています。手指や食品を介して感染するため、食事前やトイレの後には必ず手を洗い、食品を衛生的に取り取り等、感染予防対策をお願いします。マイコプラズマ肺炎の基幹定点当たり報告数は1.50です。2020年5月以降ほとんど報告のない状況が続いていますが、2024年の第30週(7月22日～7月28日)頃から増加しており、一部小児科からもマイコプラズマ肺炎増加の情報提供を受けています。例年、秋冬に増加する傾向があるため、今後注意が必要です。感染予防として、普段から流水と石けんによる手洗いをすることが大切です。感染した場合、家族間でもタオルの共用は避けましょう。また、咳等の症状がある場合には、マスクの着用や咳エチケットをお願いします。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19、インフルエンザ、溶連菌感染症は無かった。手足口病は減少した。
感染性胃腸炎は嘔吐を伴い、輸液が必要となった例があった。
発熱と咳の症例の半数ほどはマイコプラズマ抗原検査が陽性であった。流行中と思われる。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

成人でCOVID-19陽性例がやや増加。軽症経過で気付きにくい例もある。
小児も「同胎が陽性で」と言われてこられた例がある。
インフルエンザはなかった。

咳の例が多くマイコプラズマが増加。入院例もあった。乳児も咳の例が多いがRSは検査陽性例はなかった。
感染性胃腸炎も多い。軽症で嘔吐より下痢が主で経過は短期。手足口病が持続して見られる。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病はやや減少。COVID-19も減少してきた。嘔吐中心の胃腸炎が増加してきた。
遷延する呼吸器疾患ではマイコプラズマやパラインフルエンザが検出されている。